

ひとりとひとり

～ 一卵性双生児子育て記 ～

0歳～3歳

須藤 麻江

まさか、自分が双子の親になるとは、思いませんでした。我が子が生まれるとわかった時、私の望みは「かぐや姫のようなしっとりした女の子、ひとり」でした。ところが、あと一か月で生まれるという時になって、双子ということが判明。それからはやかったこと。あつというまに時は過ぎ、気づいたら「かぐや姫」どころか、「白のような金太郎ふたり」の母になっていたというわけでした。

訓平、二〇二〇グラム、竜平、二五〇〇グラム。ふたりとも、生まれたときの状態が良くなかったのですが、日赤病院の未熟児センターに入院しました。竜平は、三週間の入院。訓平は、一度、一か月後に退院しましたが、「腸回転異常」ということで再入院。延べ、約七十五日間病院で過ごしました。

寝返り、お座り、支え立ち、はいはい、ひとり歩きなどは、ほとんど、同程度に発達していきましたが、訓平が竜平の体重においつくのには、やはり一年かかりました。

ふたりは、一卵性双生児です。一卵性双生児は、本来、一人の人間になるはずの受精卵が、発生のごく初期に分離して、二人の人間になったため、ふたりのもっている遺伝子はまったく同じと考えられているそうです。

お腹の中にいる時も一緒、生まれてからも一緒。遺伝子も同じ、環境も同じなら、性格もさぞよく似ているにちがいないと考えがちです。実際、私も、双子を育てる前はそう思っていました。ところが、やはり双子はひとりひとり。それぞれに個性があり、こちらものいろいろ楽しませてもらいました。また、カンカン、キンキン、よく怒らせてもらいました。

では、育児日記を頼りに、双子の成長をたどっていきたいとおもいます。

いつも いっしょ

三か月に入った頃から、竜平が訓平に、にこにこ笑いかけています。わかって笑いかけているのかな。あやすと、けらけら笑ってくれるから、わかって笑いかけているのかもしれないね。訓平とふたり、自分の手をじっと見ているの。……略……訓平くんの手が目の前にくると、それをじっとみているけれど、その手は訓平くんの手ですよ、竜平。

(三・五か月)

ふたりは、分厚いマットに、三十センチほど離れて寝ていました。当然、手や足がふれたり、笑い声や、泣き声もきこえ、もう一人が動くと、その振動も伝わります。二人は、風の音や鳥の声の自然音、いつでもどこからでもきこえてくる生活音の如く、おたがいの存在を感じていたように思います。

訓平、今、ハップウスチロールの箱の中でお座り。だん

◀ 七か月ごろ ハッポウスチロールの中にいたころ
ガラガラをもっているのが竜平、もっていないのが訓平



だん、ご機嫌ななめ。よだれかけのりんごのアップリケを
竜平につかまれたり、私が訓平にあげた新聞紙をいつのま
にか竜平がもっていたり……。

(七か月)

※

最近、二人の間に、積極的なコミュニケーションがみえ
てきましたよ。主に竜平から笑いかける。そして、また、
けられけらと訓平が笑う。そんなに長い間ではないけど、笑
いあっている姿がよくみられます。

たまたま、手や足がふれて、けられけら笑うこともありま
す。

(七か月)

お座りができるようになると、私は、二人を魚をいれ
る大きなハッポウスチロールの箱に向かい合わせですわ
らせておきました。向かい合うと、いやでも相手の顔が
目の前にくるわけで、竜平にとって訓平は、格好のおも
ちゃのようでした。よだけかけは、ひっぱる。ものはと
る。訓平は、なにがなんだかわからないようで、きよと

んとして、されるがまま、という感じでした。

このような竜平の行為は、訓平にとっては不快そのものです。竜平にとっても、私に手やおしりをたたかれれば不快でしょう。しかし、お互い、不快の素だけをふりまいていたわけではありません。箱の中で、偶然足と足がふれて、くすぐったいような楽しい興奮を味わうことができたのも、お互いがいてこそできたことなのですから。

竜平、一人で、いないいないばあが、ずいぶん上手にできるようになったわね。きょうは、おむつをつかってやっていたね。それをみて訓平がけらけら笑っていたよ。竜平が、いないいないばあー。訓平が、けらけら、きやつ、きやつ。

(9か月)

双子でいいなあと思うことのひとつに、この「いないいないばあ」があります。大人が相手をするとき、必ず、食事の準備、来客、電話など、雑多な用事で「はい、ま

た今度ね」という具合になりがちです。しかし、ふたりの「いないいないばあ」は、際限なく続きます。好きなこと、気持ちの良いことを、同じように興味ある子とやるのですからおわるわけがありません。二人には、不快な事も次々起りますが、快適なことも徹底的に行われます。

ここら辺が、異年齢の兄弟と、同年齢の兄弟のちがいかもしれません。

でっばる竜平、ひっこむ訓平

知らない子が、竜平の車に乗りたがったときのこと。訓平はさっと自分の車をその子にわたして、ぱっと家の方に走っていき、三輪車に乗ってやってきました。すると、今度は、竜平も三輪車に乗りたくなって、「ぼくの！」といって、訓平から三輪車をとろうとしました。まったく勝手。訓平は私が、竜平に「車をかしてあげて、三輪車に乗ったらどう？」と言ったことをしっかりきいていた様子。もち

ろん、私は訓平の味方。

※

(二歳五か月)

竜平、どうして訓平が積み木で遊んでいるのに、急に横取りしたり投げたりするの。訓平が、レゴを汽車にして、上手にお人形をのせて動かしていると、それを投げたり、訓平が粘土をつかって自動車を作っているとそれをまた投げたり……。

(二歳九か月)

ハップウスチロールのなかでのふたりの力関係は、その後も続きました。竜平が、先にちょっかいを出す。自分の欲求を、常に最優先してそれをはばむものは許さない。その暴君ぶりの一番の被害者は訓平です。竜平は、叱られる回数も、俄然多いのですが、気分転換の早いこと、早いこと。泣いて私に抱きついてきたと思ったら、もうすっかり元気になって、悪行を続けるという具合でした。訓平は、叱られると、平気な顔をしてひとりつぶつぶおはなしをして、かたくなになります。泣くとき

二歳のころ

とらうとしているのが竜平、
とられるのが訓平



はこれがまたすごい。火がついたように激しく泣き、好きなおもちゃを渡しても、竜平はすぐにごまかされるのに、訓平はいつさい拒否。ぽいぽいとそれは見事な投げっぷりです。竜平にものをとられる、こわされる……いっぱいたまった欲求不満をうわつと吐きだしている、そんな感じでした。私も主人もなるべく、訓平から先に声をかけたり、抱いたりするよう心がけました。

外へ出る

初めて、双子用の乳母車に乗った感想は？ 竜平がえんえん泣くから、まわりに人垣ができたね。訓平はおすましして、ぜんぜん平気。竜平を抱っこしたら、胸に顔をこすりつけては横目でまわりをちらり。訓平は、知らないおばさんににこにこして抱かされていたね。

(六か月)

※

家のすぐ前に小さな公園があります。そこに二人を連れ

ていくと、四歳ぐらいの女の子が、砂場で遊んでいました。訓平は、たったたたと砂場めざして歩いていくと、女の子が作っているケーキの上を通って見事にこわしてし



まいりました。私はひたすら女の子にあやまって、訓平を叱りましたが、ふと見ると竜平がいません。公園からでてしまったのではないかと一瞬背中がひやりとしました。

しかし、大丈夫。いました。竜平は、べたりと地面にすわって、大きな石の上に小さな石をたくさん並べて遊んでいました。かなり熱中している様子です。すると、さっきの女の子が私のところにやってきて、「あの子（訓平）がスカートに砂をかけたあ」と訴えてきました。訓平はというと、何事もなかったかのように砂場にすわり込み、コップに砂を入れて遊んでいました。

※

（一歳四か月）

訓平は、今日、ようちゃんちに遊びに行ったね。竜平は行かなかった。一回目お迎えにいったら、ばいばいって私に手をふるの。まったくがっかりよ。竜平はその間、一人で待っていたけれど、私が上がっていくと、「まま、まま」っていいながらドアをたたいていました。二回目、お迎えにいったら、ようちゃんのおじさんに、電車のご本を

読んでもらったの。「またおいで」って、おじさんにいわれたね。おしっこでパンツをびっしょりにしたから、ようちゃんのをかしてもらったね。

（一歳十一か月）

外にでるようになると、やはり、双子は目立つらしく、見知らぬ方まで「よく似てるわね」「どっちがお兄さん？」などと、積極的に話しかけて下さいました。日夜、ふたりにふりまわされている私にとって、そういう会話は、いい気分転換になりました。また、面白いのは、家では暴君ぶりを発揮している竜平が、人がくると、泣いて抱っこせがみ、私から離れないのに対し、訓平は、平気で知らない方に抱かされたり、あやされてけらけら笑ったりと、とてもおびのびしていたことです。トラブルメーカーぶりを発揮したのもまず、訓平。竜平が訓平の後ろからちよろくつついて歩く姿は、なかなか面白いものがありました。俗にいう、内ベんけい、外ベんけい。それぞれ、でっぱり所、へっこみ所があって、心のバランスがとれていたのかもしれませ



▶ 一歳のころ（外にでるとこうなる）
 けているのが訓平、けられているのが竜平

ん。しかし、結局、家の中同様、手がかかるのは、私の後をおって泣く竜平でした。

遊ぶ

ふたりでなにやらくちやくちやおはなし。目を見つめあって、笑ったりにらんだり。首をかしげたり。まるで鏡をみているみたいだね。訓平が、私そっくりの口調で「めっ」とかごちゃごちゃ、竜平におこる。竜平は、「えーん」と泣いてばたつたとおれる。そして顔を見合わせて、ふたりでえへへへへ。

（二歳十か月）

※

竜平は、ミニカーをずらーつと全部並べるのが得意。訓平は、竜平の三分の一ぐらいかな。じっくり選択してから自分の好きなミニカーだけ並べる。

（二歳九か月）

※

〈ほんちゃんごっこ〉

……略……

訓「ようちえん、いつてる？」

竜「いいな、いいな、ぼく、いつてない」

訓「お子さまランチたべるの」(園で)

竜「しょうぼうしゃでいくんだらう。(消防車を動かしなが

ら) うーうーうー」

訓「おまえもおこさまランチたべにいくか？おまえも、よ

うちえんにいれてやろうか？」

竜「いいよ、いいよ」(入るという意味)

……略……

(三歳四か月)

ふたりは、いつも一緒です。一人が泣いていた、叱られたりしている時も、何か楽しい遊びを発見した時も、いたずらしようとしている時も、いつも一緒です。

ちょうど、まだ、乳児のころ、三十センチ程お隣りにいて、相手の存在を振動で感じていた時のように、一緒にどきどきしたり、わくわくしたり、いろいろしたり。

私が特に面白いと思ったのは、「ふたりしか入れないほんちゃんごっこ」です。これはほんちゃんというくまの小さなお人形を、ふたりが交互にストーリーを言いあいながら動かしていく人形遊びです。この遊びが始まると、二人はひとつのカプセルの中に入ってしまったように仲良く、楽しそうに遊びます。いつになったら終わるかと思うくらい長く続きます。あの「おわりなきいいないないばあ」のように。そんなふたりを見ていると、双子っていいなあと思います。

白のような金太郎ふたりは、なにせ、とったとられた、かんだかまれた、の経験が豊富なため、幼児の社交会ではトラブルメーカーぶりを発揮しました。幼稚園での子の様子は、また次回で報告させていただきます。

(作家・ツインマザーズ所属)